









「決まってるでしょ？みんなで、ねっとりセックス  
三昧でしょ」

その言葉を合図に、空気が一瞬で濃密に変わった。  
ルキはまずミーシャを抱き寄せ、力強い女戦士の爆  
乳を両手で鷺掴みにした。ミーシャは嬉しそうに笑  
いながらルキのスクール水着をずらし、すでに完全  
勃起した20センチ超の極上巨根を露出させる。

「ルキのデカチンポ今日も最高に硬いわ

ミーシャは湯の中で膝立ちになると、両手でそのデ  
カチンを優しく包み込み、ゆっくりと手コキを始め  
た。彼女の細くて長い指が、太い竿をじっくりとシ  
ゴき上げる。

続いてミーシャは自慢の爆乳を寄せ、ルキの巨根を  
谷間に埋め込んだ。パイズリだ。「ムニユムニユあ  
はチンポ、太くて熱い」柔らかく重厚な乳肉が  
巨根を包み込み、上下に激しく擦り始める。

「んふっルキのチンポ、アタシのデカパイでシ  
コシコしてあげるどう？気持ちいい？」

ルキは恍惚とした表情でミーシャの髪を撫でながら腰を軽く動かした。

「いいよ❤️❤️❤️パイズリ最高だあ❤️うほお❤️もつと強く挟んでえ❤️」

やがてミーシャは巨根の先端を口に含み、喉奥まで咥え込むディープスロートフェラを開始した。

「グポグポ❤️」と卑猥な音が辺りに響き渡る。

一方、ロリーはヒマリに寄り添い、妖しく微笑みながらヒマリの包茎チンポを優しく握った。

「ヒマリくんって包茎なんだあ❤️わたしがねちっこくおしゃぶりしてあげるね❤️」ロリーはヒマリの股間に顔を埋め、皮被りの先端を舌でチロチロと舐め回し、ゆっくりと皮の中に舌を滑り込ませた。ねっとりとしたフェラチオが続き、ヒマリはすぐに甘い喘ぎ声を上げた。

「あんっ❤️ロリー❤️上手う❤️皮の中、気持ちいいよお」

「レロレロ❤️包茎なのに、すっごくおっきい❤️」

ロリーはヒマリの包茎デカチンポにすでにメロメロの様子だ。

そして俺には、ミカが湯の中で優雅に近づいてきた。彼女は俺の股間に視線を落とし、わずかに唇を歪めた。

「可愛いチンポね、ダーリンくん💖ほら立って💖」俺は湯から立ち上がった。俺の包茎チンポはすでに期待と興奮でギンギンだった。ミカは俺の勃起した包茎チンポを右手で包み、熟練した手つきでしごき始めた。彼女の柔らかい掌が、敏感な皮を優しく刺激する。

「う・・くっ★！」俺は必死に耐えたが、すぐに限界が近づいてきた。ミカは俺の表情を見てくすくす笑う。「あれ？もうイキそう？まだ許さないわよ」彼女は爆乳を寄せ、俺のチンポを乳肉の谷間に挟み込んだ。温かく柔らかいパイズリが始まる。ミカの巨大な乳房が上下に動き、俺の弱いチンポを容赦なく責め立てた。

「は★あっ★！ミカ・・・やばい★！」

俺は何とか射精を堪えたが、身体が小刻みに震えていた。ミカの目がさらに妖しく細められる。

「ふふっ、まだ我慢できる？じゃあ・・・」

ミカは俺を湯船の縁に座らせると、自ら跨がってき  
た。騎乗位の体勢だ。彼女の熱く濡れた秘部が、俺  
のチンポの先端に触れる。「入れるわよ？」



「ずぷっ」と、ミカのヌルヌルの膣内に俺のチンポがズブズブと飲み込まれた瞬間、強烈な快感が爆発した。

「うわっ！あ・ああっ★！！」

たった2秒。挿入した直後、俺はミチミチでヌルヌルのエロ肉壺に締め付けられ、あまりの快感で情けなくもあっけなく射精してしまった。

「ぶっ★びゆるっ★びゆる★」

勢いよく精液がミカの中に放出される。

ミカは驚いて腰を軽く回した。

「え？もうイツちゃたの？うそでしょ？ほんとに？

ムチャクチャ早漏ね・・ダーリン」

早漏という言葉が胸に突き刺さる。俺は屈辱と快感で頭が真っ白になった。

その頃、ルキとミーシャのセックスはさらに激しさを増していた。ルキはミーシャをマットレスの上に仰向けに押し倒すと、彼女の脚を高く持ち上げ、パイルドライバーの体勢に固定した。巨大なデカチン





がミーシャの秘部に一気に突き刺さる。